

第3章 居住者調査

1 回答者属性等

注：以下の集計は、特に記載がないかぎり、17,079票（N=17,079）を100%として集計している。

(1) 回答者属性

回答者の性別・年齢〔資料3.居住者調査：調査票 問32〕

- ・回答者の性別は、「男性」が40.4%、「女性」が56.5%である。
- ・回答者の年齢は、「60代」28.4%、「70代」28.6%を占めており、54.6%が65歳以上である。

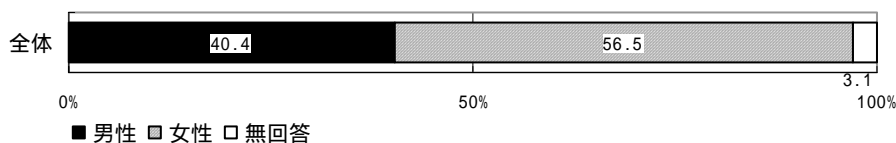


図3-1 回答者の性別

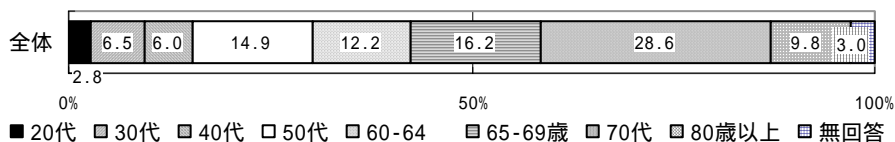


図3-2 回答者の年齢

世帯人員・家族構成〔問33〕

- ・世帯人員は「1人」が最も多く、37.4%を占めている。続いて多いのが「2人」で、両者をあわせると69.4%である。
- ・複数家族世帯の同居家族の類型をみると、「配偶者」が最も多く、複数家族世帯の67.5%を占めている。続いて多いのが「子ども」の46.7%である。

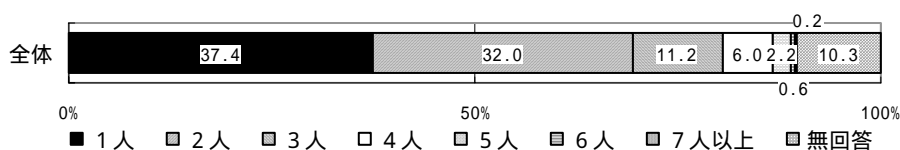


図3-3 世帯人員

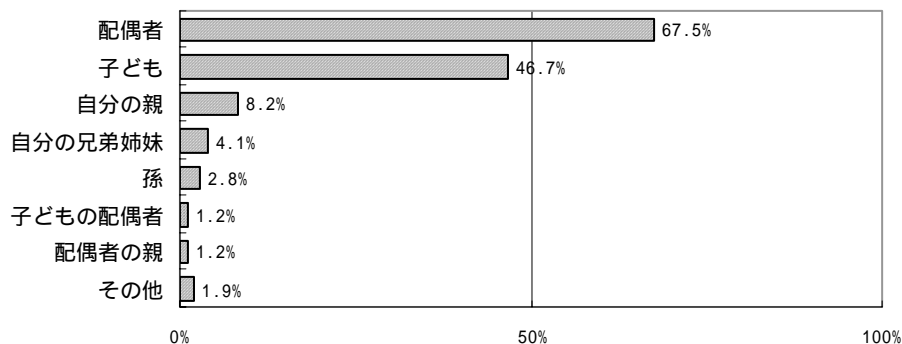


図3-4 同居家族（N=8,963）[複数回答]

回答者の職業 [問34]

- ・回答者の職業は、「無職」が最も多く、41.7%を占めている。続いて多いのが「退職・年金生活」で、両者をあわせると60.0%である。

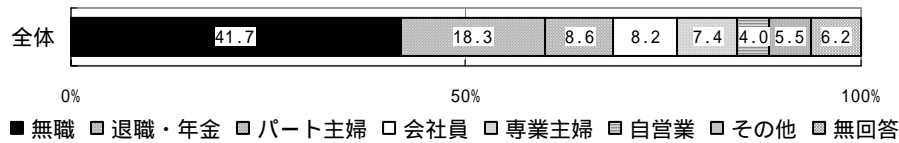


図3-5 回答者の職業

(2) 震災時の住まい

震災時の住まいの構造と建て方 [問2]

- ・震災時の住まいの構造と建て方をみると、構造では「木造」が70.1%を、形態では「集合住宅」が37.1%を占めている。

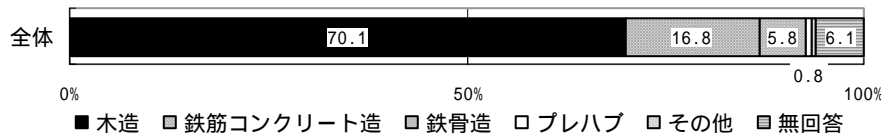


図3-6 震災時の住まいの構造

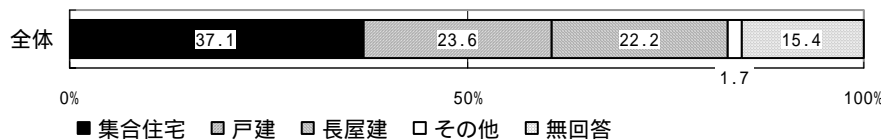


図3-7 震災時の住まいの建て方

震災時の住まいの種類と家賃 [問3]

- ・震災時の住まいの種類は、「持家系」23.4%、「借家系」が71.3%である。「持家系」のうち「借地持家」は8.3%、「借家系」のうち「民間借家(戸建・長屋・木造アパート)」は52.9%であった。
- ・借家系の家賃は、「3～4万円」が最も多く22.5%、続いて多いのが「2～3万円」で20.4%を占めている。59.8%が「4万円未満」であるが、「5万円以上」も21.4%見られる(現在の家賃は66.7%が「3万円未満」)。

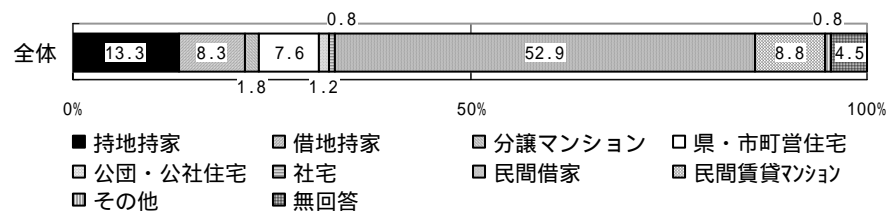


図3-8 震災時の住まいの種類

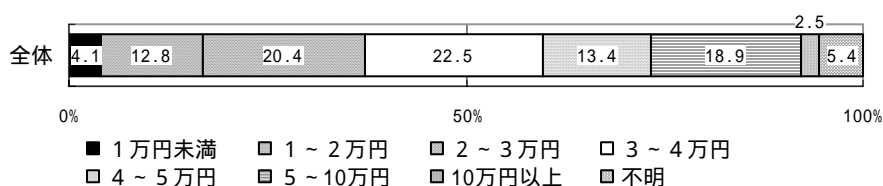


図3-9 震災時の家賃 [借家系] (N = 12,190)

(3) 震災の被害

住宅被害の有無 [問4]

・震災による住まいの被害は、「全壊・全焼」が最も多く74.5%、「半壊・半焼」を含むと90.0%に達する。

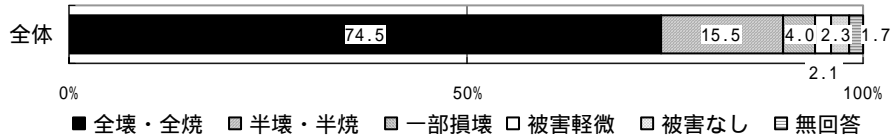


図3 - 10 震災の住宅被害

人的被害の有無 [問5]

・震災による死亡や負傷等の人的被害をみると、27.6%の世帯が何らかの被害を受けていた。
 ・その内容は、「ケガはしたが入院はしなかった人がある」が最も多く、被害を受けた世帯の44.9%、全体の12.4%を占めている。一方、「亡くなった人がある」は被害を受けた世帯の11.1%、全体の3.1%である。

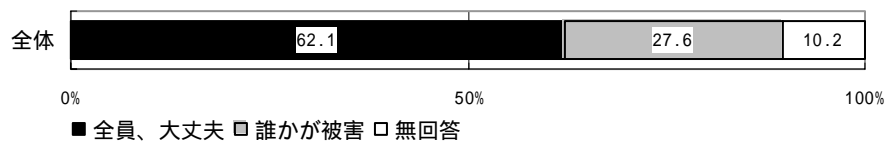


図3 - 11 震災の人的被害

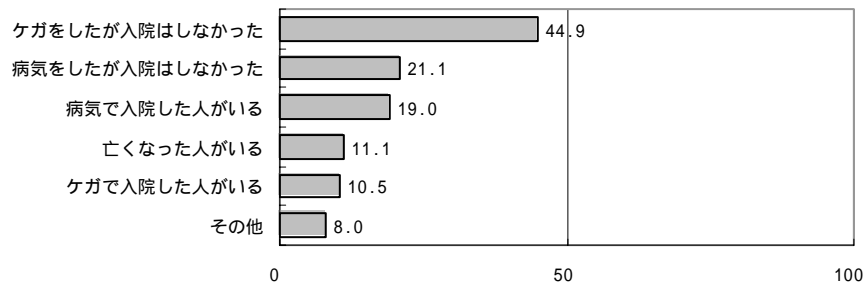


図3 - 12 人的被害の内容 (N = 4,721) [複数回答]

2 震災後の住まいの移動

(1) 住まいの移動状況 [問6、7、8、9、10]

・震災後の住まいの移動状況を被災地内外の別でみると、月日が経つにしたがって「被災地外」に移動しており、震災6か月後の時点では、「被災地内」に留まっているのは43.5%である。

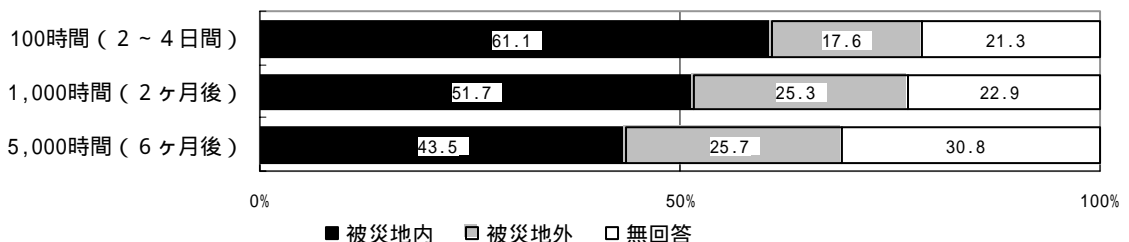


図3 - 13 住まいの移動状況 [被災地内外]

- ・震災後の住まいの移動状況を住まいの種類で見ると、震災2か月後までは「避難所」が最も多い。特に、震災直後の2～4日間では「避難所」が43.1%を占めており、続いて多いのが「親類・親戚の家」の21.7%である。
- ・その後、「仮設住宅」への入居が進み、現在の公営住宅入居前の時点では「仮設住宅」が55.2%を占めており、「民間賃貸住宅」も19.8%となっている。

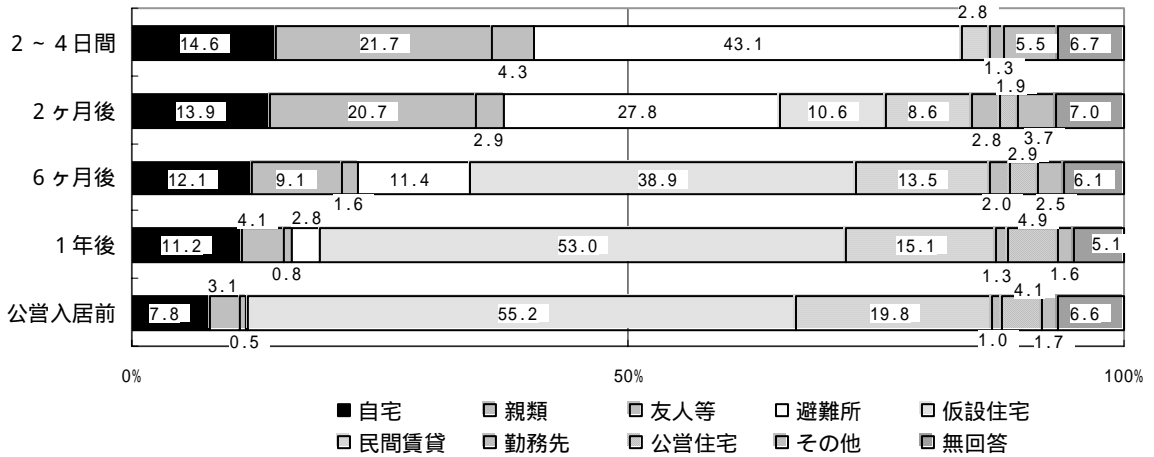


図3 - 14 住まいの移動状況 [住まいの種類]

(2) 公営住宅への申し込み回数 [問12]

- ・現在の住宅に入居するまでの申し込み回数は、「1回目」で入居した世帯が最も多く、39.5%を占めている。続いて「2回目」「3回目」が多く、3回目までで66.6%が入居している。一方、「5回目以上」の世帯も14.1%見られる。

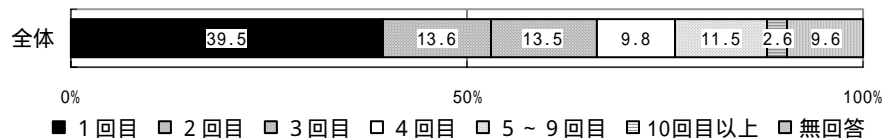


図3 - 15 公営住宅への申し込み回数

(3) 入居理由 [問13]

- ・現在の住宅への入居理由は、「家賃が安いから」と「他に行くところがなかったから」の2つが主で、それぞれ37.3%、36.6%であった。続いて、「昔住んだ地域に近いから」が25.6%であった。

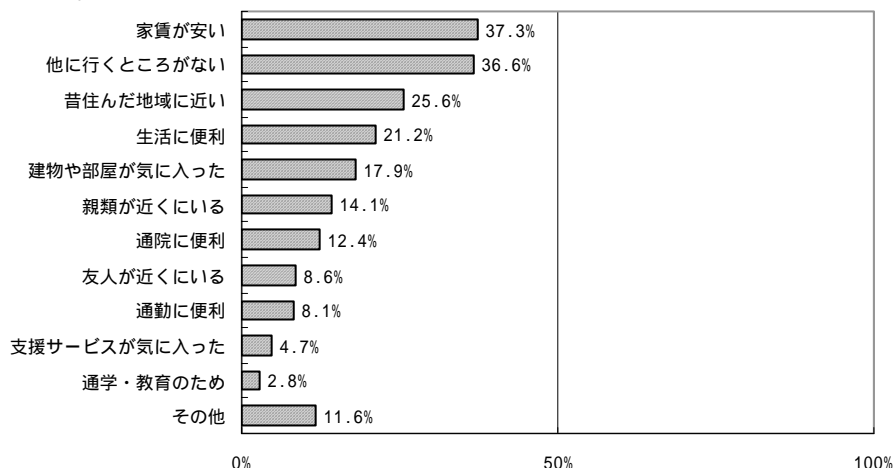


図3 - 16 入居理由 [複数回答]

3 現在の住まいに対する評価

(1) 現在の生活で困っている点 [問14]

・現在の生活で困っている点としては、「買物に不便」30.1%、「騒音や振動が気になる」27.7%、「押し売りや訪問販売が多い」25.7%が主たる事項である。続いて多いのが「ゴミ捨てるルールを守らない人がいる」21.3%、「病院への通院に不便」19.2%である。

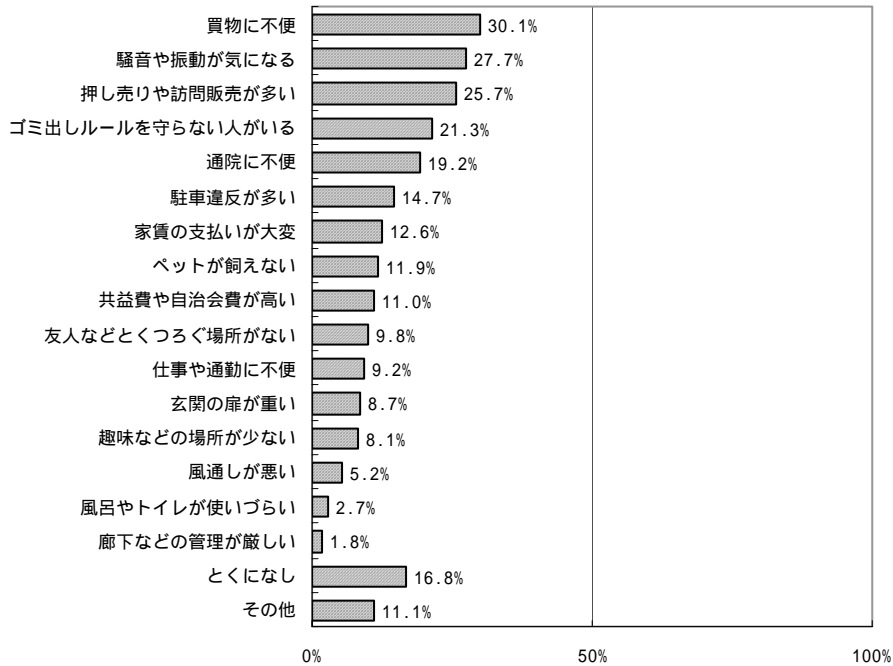


図3 - 17 生活で困っている点 [複数回答]

(2) 現在の住まいに対する認識 [問15]

・現在の住まいに対する評価をみると、“そう思う”とする割合が高い項目は、「この住宅にずっと住み続けるつもりだ」52.9%、「今、住んでいる環境を大切にしたい」50.6%、「今の住宅で安心して暮らしている」46.8%である。一方、「地震時の方がよかった」で“そう思う”という回答も34.2%あった。

・また、「仮設住宅に住んでいた時のほうがよかった」、「公営住宅ではない住宅に住みたかった」については、“そう思わない”とする割合が高いが、この2項目は他の項目と比べて無回答率も高い。

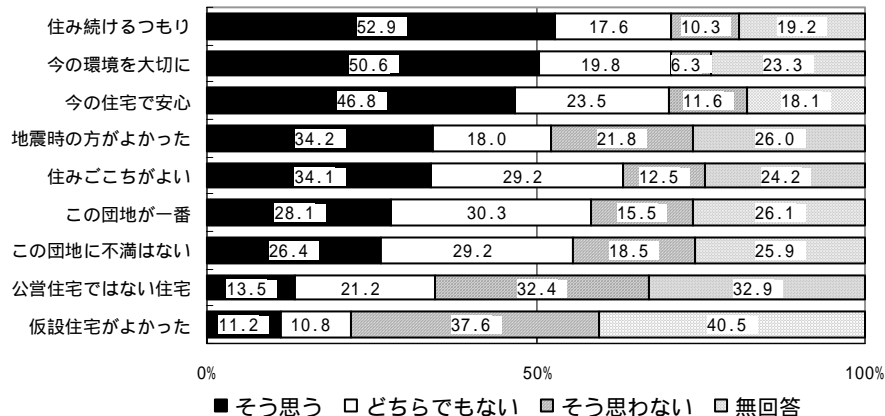


図3 - 18 住宅の評価

4 震災後のくらしの変化

(1) 家計のやりくりと家賃

家計（収入・支出・預貯金）の変化 【問16】

- ・震災後の家計の変化をみると、「収入」「預貯金」が“減った”という世帯が多く、それぞれ49.8%、50.1%を占めている。
- ・一方、「支出」は、25.9%の世帯が“増えた”と答えており、その割合は「医療費」が最も多く、41.9%を占めている。続いて多いのが「交通費」30.2%、「光熱費」29.2%、「保険料」29.1%である。支出が“減った”と答えた割合で高いのは、「レジャー費」35.5%、「外食費」32.4%、「衣服費」32.0%、「住居・家具費」27.4%などである。

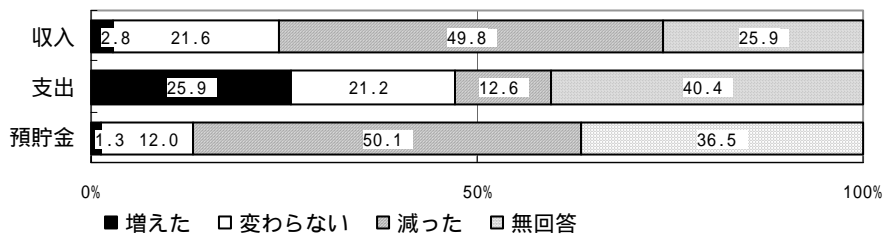


図3 - 19 収入等の増減

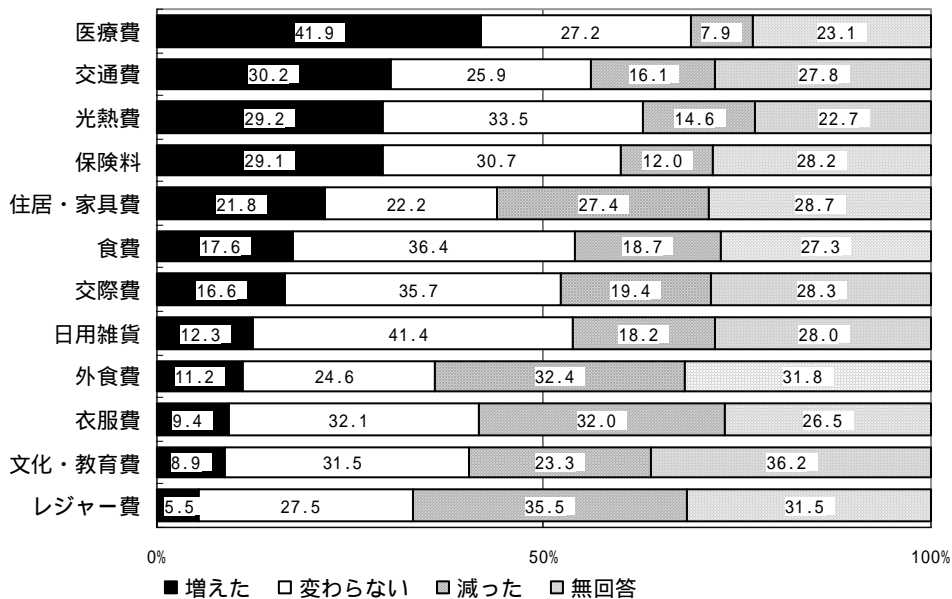


図3 - 20 支出内訳の増減

現在の家賃 【問17】

- ・現在の家賃は、「1万円未満」25.4%が最も多く、続いて多いのが「2～3万円」24.0%で、66.7%が「3万円未満」である。

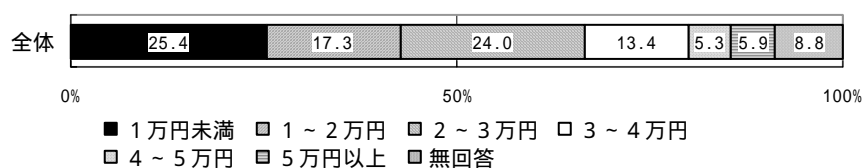


図3 - 21 現在の家賃

(2) 復興感等

日常感の回復状況 [問18]

- ・現在の毎日の暮らしに対する評価をみると、“そう思う”(“どちらかと言えばそう思う”“まったくそう思う”をあわせた値)とする割合が最も高い項目は、「現在が、ふつうの暮らしに感じられる」であり、38.7%を占めている。
- ・「毎日の生活は、震災前と同じように、決まったことのくり返しに感じられるようになった」「震災直後は物欲が減ったという人が多かったが、今はもう震災前と変わらない」の2項目についても、“そう思う”とする割合がそれぞれ34.7%、32.2%を占めている。
- ・それに対して、「この団地で、どのように暮らしていけば良いのか、そのめどは立った」という項目については、“どちらとも言えない”という回答が最も多い。

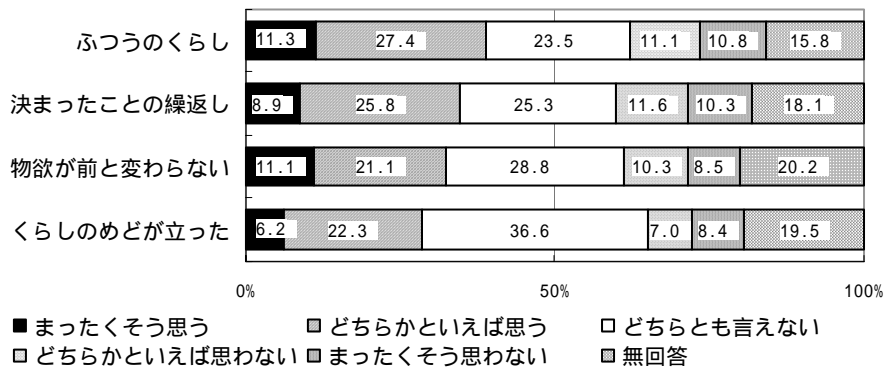


図3 - 22 暮らしの評価

震災体験に対する認識 [問19]

- ・震災の体験に対する評価をみると、“そう思う”(“どちらかと言えばそう思う”“まったくそう思う”をあわせた値)という割合が高い項目は、「震災での体験は、日常生活では得がたい経験だった」58.9%、「震災での体験は私の過去から消し去ってしまいたい経験だった」39.9%である。
- ・また、「今ではもう震災を話題にすることもなくなった」は、“そう思う”と“そう思わない”(“どちらかと言えば、そう思わない”“まったくそう思わない”をあわせた値)がほぼ同率を占めている。

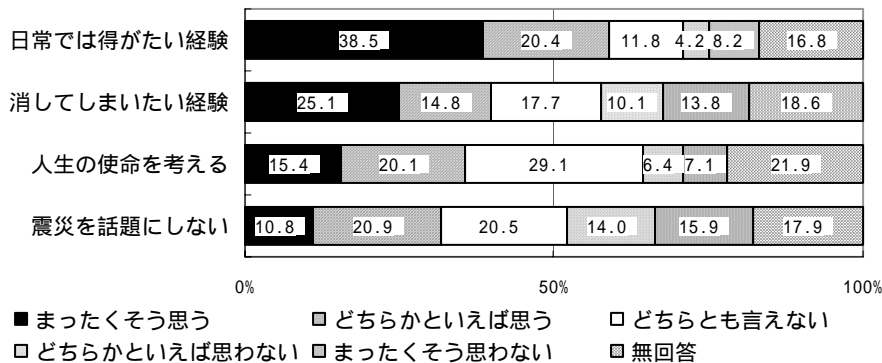


図3 - 23 震災体験の評価

被災後の生活設計に影響を与えた人とのめぐりあい〔問20〕

・自分の生活設計に影響を与えた人とのめぐりあいについてみると、そういう人と「めぐりあった」と回答した者は35.7%である。そして、そのうち、87.4%が「現在もつきあいが続いている」と回答している。

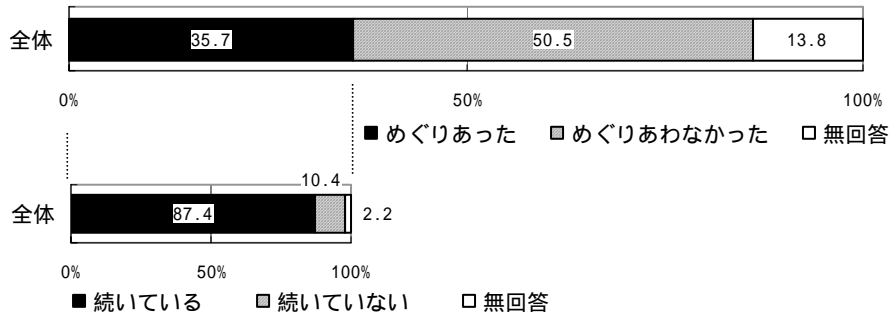


図3-24 人とのめぐりあいとつきあいの継続

5 現在の暮らし

(1) 心身の健康等

暮らしの震災前との比較〔問21〕

・生活感に関する震災前との比較をみると、「自分のしていることに生きがいを感じること」や「日常生活を楽しく送ること」については、震災前と“変わらない”が最も多く、それぞれ39.7%、36.6%である。

・「自分の将来は明るいと感ずること」については、“減った”(“かなり減った”と“少し減った”をあわせた値)が40.1%を占めている。

・一方、「家の中にいる時間」については、“増えた”(“かなり増えた”と“少し増えた”をあわせた値)が45.3%を占めている。

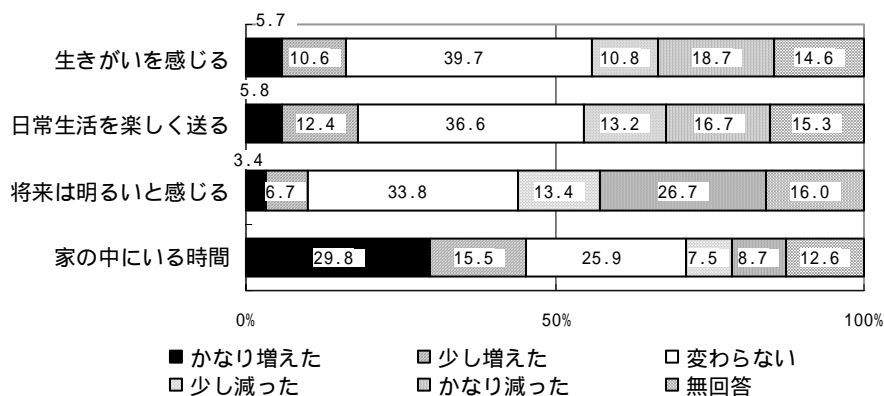


図3-25 生活の変化

最近1か月の心身の健康状態〔問22〕

・最近1か月の心身の健康状態をみると、“よくあった”(“いつもあった”と“たびたびあった”をあわせた値)の割合が高いものとしては、「気持ちが落ち着かない」24.3%、「気分が沈む」25.3%、「集中できない」22.6%という精神的な項目があげられる。

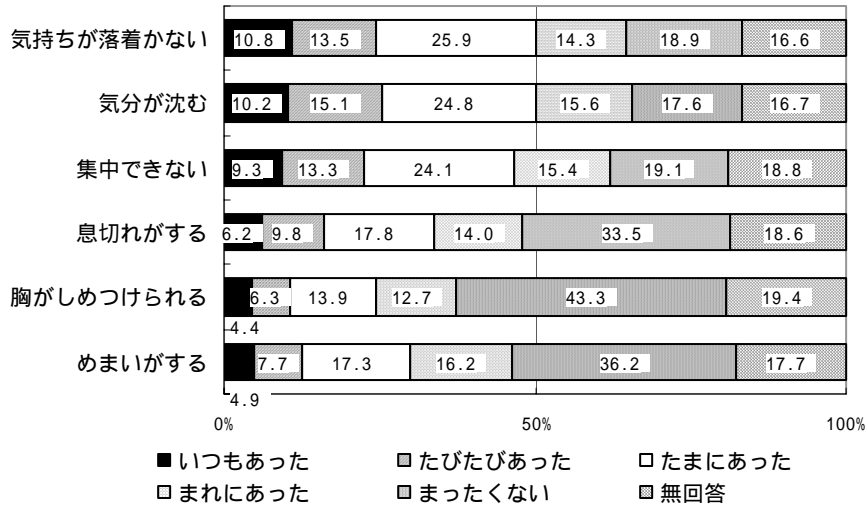


図3 - 26 最近1か月間の体調

(2) 現在の生活に対する認識

生活に関する満足度 [問23]

- 生活に関する満足度をみると、“満足”(“大変満足”と“やや満足”をあわせた値)の割合が高い項目としては、「毎日の暮らし」26.1%、「人間関係」25.5%、「家庭生活」23.5%であるが、“どちらでもない”、“無回答”の割合が高く、それぞれの項目で、43.3%、49.6%、46.8%になる。また、「人間関係」では、“満足”が“不満”(“大変不満”と“やや不満”をあわせた値)を上回っている。
- “不満”の割合が高い項目として「自分の健康」48.7%、「家計の状態」52.6%の2項目があげられる。

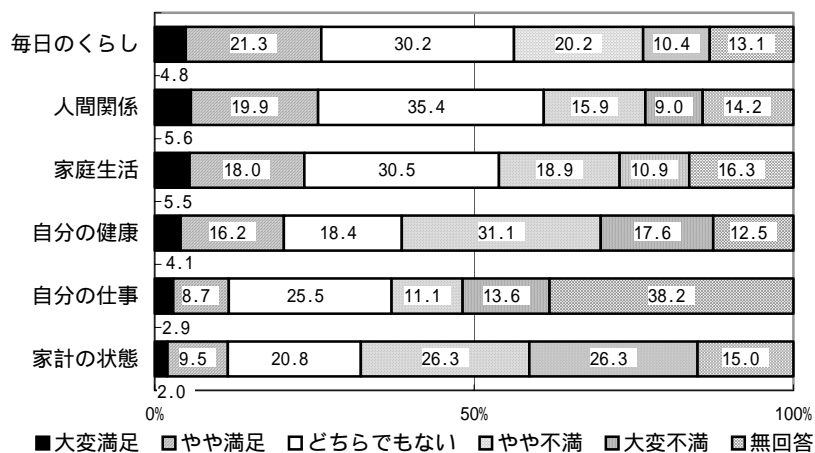


図3 - 27 生活に関する満足度

1年後の生活状況の予想 [問30]

- 1年後の生活状況の予想については、“変わらない”が47.5%を占めており、“良くなる”(“かなり良くなる”と“やや良くなる”をあわせた値)という回答は8.9%、35.6%が“悪くなる”(“かなり悪くなる”と“やや悪くなる”をあわせた値)と回答している。

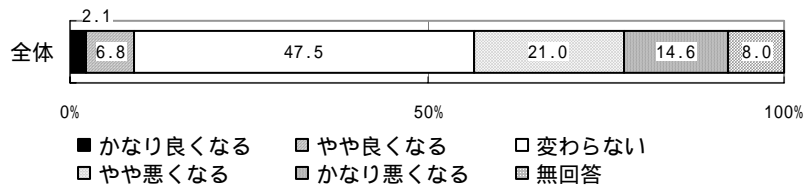


図3 - 28 1年後の生活状況

6 近所づきあい等

(1) 近所づきあい [問24]

近所づきあいの有無

- ・近所づきあいの状況を見ると、つきあいのある人が“いる”割合が最も高いのが「いつもあいさつをする近所の人」の70.5%、次いで「おすそわけをしたり、おみやげをあげたりもらったりする近所の人」が57.1%である。
- ・しかし、つきあいの密度が高くなるにしたがってその割合が低くなり、「同じ趣味やスポーツをいっしょにする人」は22.1%に低下する。

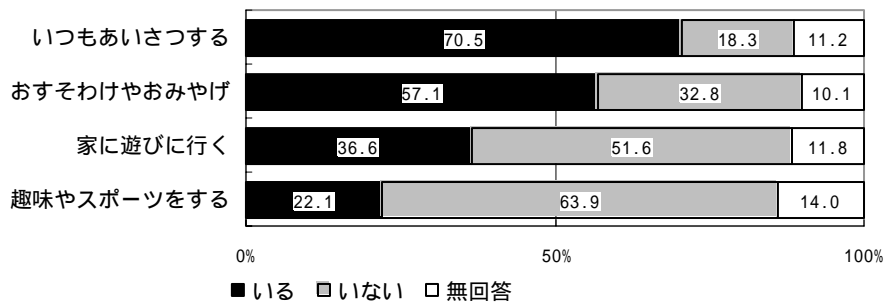


図3 - 29 近所づきあいの有無

- ・近所づきあいの人数は、「おすそわけをしたり、おみやげをあげたりもらったりする近所の人」と「その人の家に遊びに行ったりしたことがある近所の人」については、“1～4人”がそれぞれ73.0%、77.5%を占めている。
- ・それに対して、「いつもあいさつをする近所の人」と「同じ趣味やスポーツをいっしょにする人」については、近所づきあいの人数が幾分増え、特に、「いつもあいさつをする近所の人」は“10人以上”が34.9%を占めている。

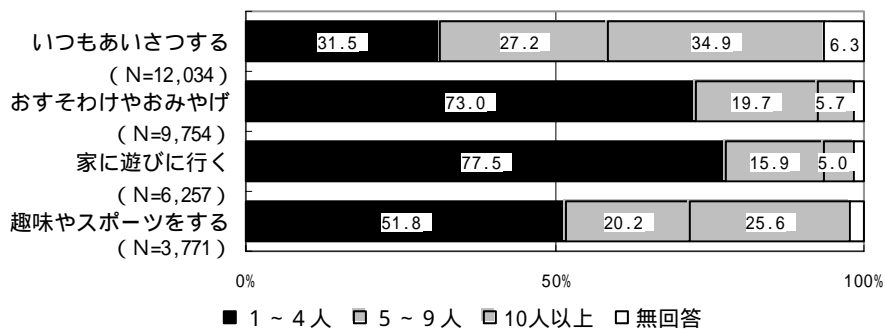


図3 - 30 近所づきあいの人数

近所づきあいのきっかけ [問25]

・近所づきあいのきっかけとしては、「同じ階でよく顔を合わせるようになって」が圧倒的に多く、74.5%がそのきっかけとしてあげている。続いて多いのが「集会所の行事などで知り合つて」と「団地内の会合(自治会など)で知り合つて」という何らかの集まりの場がきっかけになっており、それぞれ36.8%、29.9%となっている。

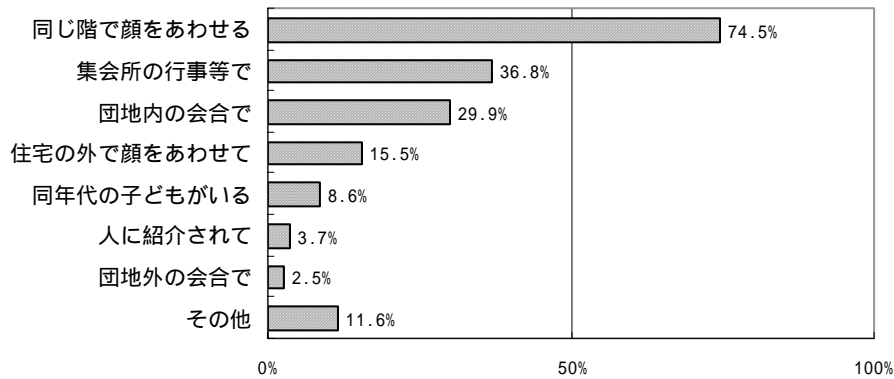


図3-31 近所づきあいのきっかけ (N = 12,645) [複数回答]

つきあいのない理由 [問24付問]

・つきあいのない理由としては、「つきあいをするような親しい人がいないから」というのが最も多く、37.3%があげている。続いて多いのが「人間関係がわずらわしそうだから」「つきあいをする時間がないから」であり、それぞれ25.3%、24.4%となっている。

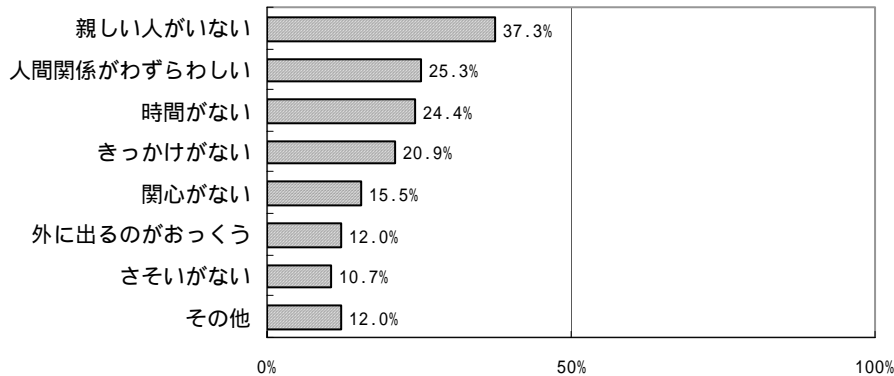


図3-32 つきあいのない理由 (N = 13,111) [複数回答]

(2) 各種活動について

自治会の有無 [問26]

・自治会の有無については、80.5%が「ある」と回答している。

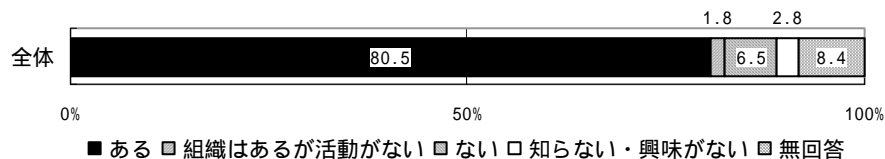


図3-33 自治会の有無

各種活動への参加状況〔問27〕

- ・「お祭りや運動会、盆踊りなどのイベント」には、38.9%が“参加している”(“たびたび参加している”“ときどき参加している”を合わせた値)と回答している。
- ・「イベントへの世話役としての参加」「まちの日頃の活動(高齢者の世話、青少年育成、防犯防火活動など)への参加」については、それぞれ66.5%、67.2%が“ほとんど参加したことはない”と回答している。

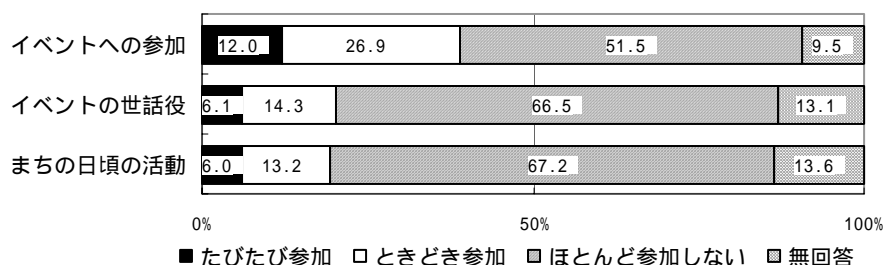


図3-34 各種活動への参加状況

(3) 頼りになる人の存在〔問28、29〕

- ・体調不良などの緊急時に頼れる人としては、「親類(同じ市区町内)」「親類(同じ市区町外)」が最も多く、それぞれ31.5%、24.2%があげられている。続いて多いのが、「友人・知人(同じ団地)」の20.4%であるが、その一方で、「とくにいない」という回答は13.3%あった。
- ・生活上の問題などで相談できる人としては、緊急時と同様に、「親類(同じ市区町内)」「親類(同じ市区町外)」が最も多く、それぞれ27.8%、24.4%であり、続いて多いのが、「友人・知人(同じ市区町内)」の15.9%、また、「とくにいない」という回答は17.2%あった。

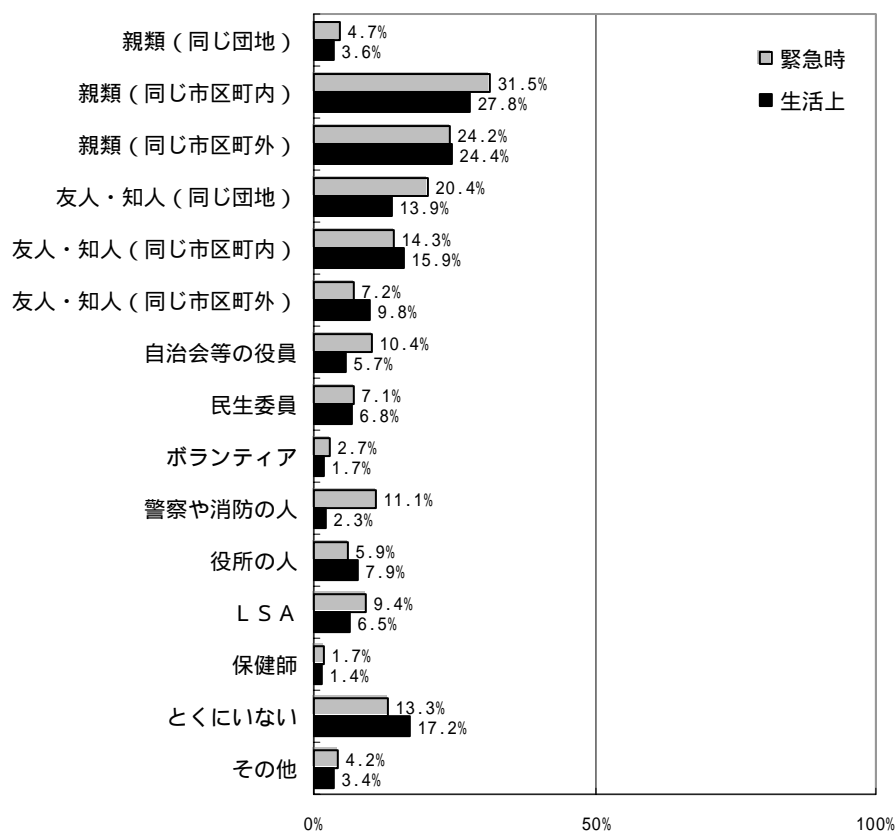


図3-35 頼れる相手〔複数回答〕

(4) 自宅への訪問者 [問31]

訪問者の有無

- ・自宅への訪問者の有無をその種別でみると、いずれも“特に来ない”と回答している割合が高いが、「団地内の係りをしている人(自治会の役員や民生委員など)」については、29.7%が“来る”と回答している。
- ・「団地の外から支援に来てくれる人(友愛訪問やボランティアの人など)」については、“来る”と回答しているのは14.1%である。

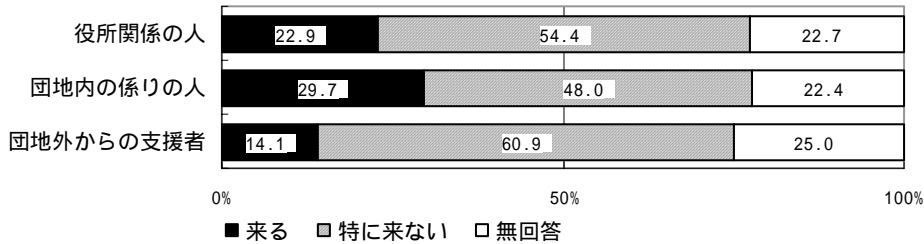


図3 - 36 訪問者の有無

訪問の頻度

- ・訪問の頻度は、“週1回程度以上”では、「団地の外から支援に来てくれる人」が最も高く、41.2%を占めている。

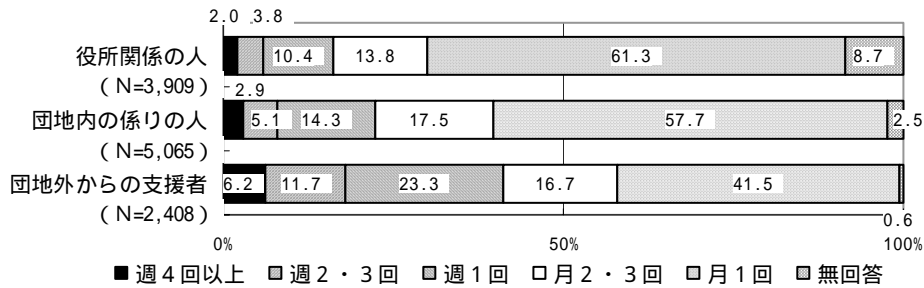


図3 - 37 訪問の頻度